陳情行政を打破し 市政に計画性をもたそう

市制十年を迎えて、そのむかし、旧村当時の村政にて活躍された、先覚者たの回顧談や、市政への苦言をうかがい、新しい十年へのかてにしたいと、九名の若き日の村長さんにあつまっていただき、いろいろ語ってもらいました。

市となって、みなさんが感じたこと、考えていることをおはなしください。

▼合併は半強制的に県が圧力をかけおしつけてきた、当時、批判が多かったが、現在は四分六で落ち着きをみせてきた。

▼むかしの村は家族的で親しみがあったが、現在はそれがない昼休みや朝早いとき仕事はしってくれないなど、官僚的な面がある。

市民の実際の声が反映されていない。市に顔のきくものか、陳情しなければやってくれないといった、陳情政治に現在の市政は重点が置かれている。

▼現在、問題になっている農協合併は、組合員の説得が大切。組合員あっての組合で、組合あっての職員である。ことに家族的でなくなった市の合併の実例と、大きくなれば職員の力が強くなりストなどの危ぐがあって、合併に気乗りしていないようだ。

▼そうしたことはいえる。市の合併にあたり、職員が強くなり官僚的になるということで、一時じゅん巡したこともあった。そんなとき、県のすすめで各村の合併委員が、中の川の国有林を見にゆき、これほどの山をくれるならばということで、話がとんとんとすすみ、合併していざ払い下げを受けてみると、ほんの一部分で悔んでもあとのまつりだった。

▼分村しても、伝統ある学校だから一緒にやらうということだった岩小学校は香南中学の生徒引きあげからこじれ、とうとう廃校になった。

▼北と南に立流な統合の中学校ができたが、中央の香南、鳶ケ池の統合し、現在の四校を三校にしてはどうか。

▼非常に道路の状態が悪くなっている。そうした実状を市は知っているのだろうかリヤカーや自転車の時代と違い、路面のいたみがはげしい、一週間もすれば元通りの悪路となる。そのたびに陳情しなければ、補修をしないといった悪循環は是正してほしい。

▼交通量の多い幹線道路は、市の方で十分気を付けて、補償してゆくべきだ、いろいろな面で議員の出ているところ、陳情のあるなしで違ってくるようだ。

南国バイパスの交さ点は高架にすべきだ。南北を結ぶ循環道路は産業の振興、市の発展につながるものだ。香長平野の旧郡境あたりに南北線を通すべきだ。地価の問題もあろうが、交通戦争の緩和を考えれば、卒先して交通網の整備はすべきものだ。

▼技術[illegible]をふやすなど、市道の管理を十分にやってほしい。幅員の足らなくなっている市道などもよくみかける。

▼土地の提供がスムースに行かな[illegible]と[illegible]、地価に問題があるときなど[illegible]のためできる施設ができなくなる場合が多い、とくに市の中心付近は、地価が高騰し、都市計画の実施にますます支障をきたしている、はやく実施するか、実施できない場合でも、道路予定地の取得なり指定を行なっておくべきだ。

▼道路工事やいろいろな建設工事に、それぞれ着工順位をつけて、市民と話し合いや、財政とにらみ合せて、計画的に実施してゆくことが必要だ。

▼支所は無用の長物と、市は考えているようだが、これを拡充し、市民の声を聞き、市道の監視、地域の実情を調査する職員を配置し、市民と密接した行政をやってほしい。

▼ようは、現地住民の声を聞くとともに、なにが、どこへ、なにおしにくるといったことを、十分知らせてほしい。一人の力でなく、市民みんなの力で、南国市の発展の基礎をつくってゆく方向に進んでもらいたい。

▼久枝から十市の海岸砂丘地帯に排水路を通じて、環境衛生の改善をはかってほしい。支線については個人負担でも止むを得ない。

▼部落の世帯数が、市民課の数と合致しないことから、募金などいろいろな面で不都合を生じている。部落にも名簿を置き、異動のときは部落長からも報告するようにし、市民課の名簿と一致するよう加除、訂正を加えてゆく方法で世帯人員がいつも実態とあっているような制度を望みたい。

市史の編さんをはやく

▼ぜひつくっていただきたいものに図書館がある、それに村史のない地区もある、資料や古老のなくならないうちに、市史の資料のしう集、編さんにあたってほしい。

若き日の村長さん語る――

語る人

西村信久（岡豊村長）
宮崎清作（長岡村長）
山本泰一郎（後免・野田組合長）
細川幸喜（野田村長）
岩村元治（大篠村長）
塩井一（岩村長）
松下亀延（前浜村長）
神田晴重（三和村長）
西村盛之（三和、香長村長／南国市長）

回顧

村の首長として、行政にたずさわり、一番印象に残こっていることをおはなし願います。

『浜改田と里改田の二つの小学校の統合をはかり、位置問題が紛糾したが、海南中学校の開成館の払い下げとともに成功した。村長の現職で招集を受けた。』という西村（盛）さん

『合併で、県下の一番乗りを目指し、南海村（十市、三和、稲生の三か村）が、ほぼ実現に向ったとき、部落の位置問題（末端になる）で一部に反対がで、大篠からの申し入れ、後免や野田の意向などにより結局は失敗に終った。』と推進役の神田さんは語りました。

かわって細川さんは、

『日本一小さい村ということぐらいでなにもない、市長職務執行者当時、旧三役にいた人たちを適当な位置へという強い要望や勤評活動のきびしい闘交でたびたびかん詰めにあった。持ち寄り赤字に資金不足とあって、支払いや財源の確保に奔走した。』と発足当時の苦労ばなしをされ。

二十二年から香長村の合併まで村長であった岩村さんは、

『年々百万円〜百五十万円の黒字が出て、いろいろなことができた。長い間やってこられた野本前村長は偉い方で、村は学校であるといい、全村学校を提唱、ひん繁に部落へ出向き、ひざを突き合せて話し合い、村民と密着した行政を実行された。

そうしたことが、公民館活動につながり、終戦から二十八年ごろの盛んな文化活動となり、芸能大会は二日間にわたって行なわれるなど、戦後の人々に活力を与えてくれた。二十五年、優良公民館として文部大臣表彰を受けた。

どこも同じことだが、米の問題が苦痛であった、論争したり、坪刈りをゴマ化したり、供出米のやりくりに苦労した、合併問題も、一部に反対があり苦しかった。』と広報の重要性を説かれました。

分村という悩みをもつ塩井さんは、

『二十八年ごろは前浜、日章との三カ村という話で、合併までに道、忠霊塔、駐在所などをととのえるということが、後免―竜河洞

住民の声を行政に

線の改修を始めたが、村民の要望によって中止し、公民館を建設、道路工事は再開できなかった。

そのご、合併問題は全村一本の基本方針をもちながら、南北二つの意見で対立、分村合併をした加茂に行き、〃話し合えば、話し合うほどむっかしい〃〃分村は避けるべきだ〃という注告を受けながら、話し合うほど悪い結果を生じた。分村はいろいろな面に禍根を残こしている』と上ずっぱりの話し合いではいけないと反省を語りました。

その塩井さんに、「土佐山田へ合併している人たちは、南国市をどのようにみていますか、という質問があって〃

『さすがに南国は、借銭をしても大きなことがやれることはやれるよ、といったことを耳にする。しかし、税金は山田の方が安い。小さな吉川村がやれるということで、なぜ分村をしたのだろう、南北一緒でやろうという声もでている。いまさらもとへ戻ることはできないので、広域行政を望む知識人は多い。』ということでした。

『後免と野田は、日本一小さな町と村で、公選法までの組合長は輸入人事であったが、住民として初めて組合長になった、当時は地方自治の創設期で、共同募金、公民館など問題が多く、困惑した時期だった。』と山本さん。

私が一番の長老とまだまだ元気な西村（信）さんは、

『戦時中、供出に苦労した、忠霊塔はすべて寄付金でできた。

戦後は合併問題が一番の山で、初めは北部五か町村の合併をすすめ、村長、議会の総辞職をしたこともある。高知市へ希望する人たちに交渉させ、合併できないことを納得させ、小さな合併より大きな合併に踏み切ることができた』ということでした。

『戦後、助役になった当時は、密造酒の一番はげしく横行したときで、取り締りや座談会で、よく職を与えてほしいと要望をしたものだ。毎週一回、報告を必要とした供出には苦労した。

合併については大きな合併の方向ですすんだ。』と松下さんには、かっての密造酒のはなし。

町村の自治より、協同組合にたずさわった方が長かったという、宮崎さんは、

『木炭の生産が多く、業者にたたかれたとき、瓶岩から以北を対象に木炭販売組合をつくり対抗策を講じた。県信連の基礎づくり、香長病院の開設に努力した。

昭和十七年、鳶ケ池や青年学校の学校林をつくり、植林をした。

長岡の忠霊塔はこの地方で一番早く、竹村氏の全額寄付でつくられ、財政面でも黒字つづきで豊かであったが、合併するときにしなければということで合併をした。

村は、政党関係の対立がはげしく、むつかしいところであった。

現在も、部落の納税組合長や分収林のことで部落のために尽している』と、まだまだやる気十分な話でした。

旧村当時の共通した話題は、供出米のことと、合併問題ということのようでした。